

新教皇選出される

第267代ローマ教皇 レオ十四世



6

2025

発行所
大阪府中央区玉造2-24-22
カトリック大阪高松司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700 (代表)
TEL (06) 6946-3223 (直通)
FAX (06) 6946-3224 (直通)
E-mail: kyokuh@osk.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」
あります。〈無料〉
※ご希望の場合は
下記まで申込み
「点訳版(点字本)」
教区報 ☎06-6946-3223(直通)
☎06-6946-3224(直通)
「音訳(テープ・デジ)」
山口さん ☎0798-34-4228

☆ワールドユースデー十字架とアイコン
☆能登ボランティア報告会(堺教会)
☆聖香油ミサ
☆教皇フランシスコ帰天に寄せて(3/4面)
☆朝禱会の活動(大阪・四国)
☆平和月間「ラム」
☆Kyokuh@osk.catholic.jp

2面
5面
『教区報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

全世界に 喜びが広がる

コンクラーベは、第267代ローマ教皇に、ロバート・フランシス・プレヴォスト枢機卿を選出した。教皇名はレオ十四世。教皇選出を表す白煙と大聖堂の鐘の後、プロトディアコノ、ドミニク・マンベルティ枢機卿が、バチカン大聖堂のバルコニーから、おごそかに新教皇の誕生を告げた。

第267代ローマ教皇
機卿が現れ、ラテン語の式
を選ぶコンクラーベ2日
文をおごそかに述べた。「皆
目、2025年5月8日18
さんに大きな喜びをお伝え
時7分(現地時間)教皇選
します。わたしたちは教皇
出を知らせる白煙が、シス
をいただきました」。

ティーナ礼拝堂の煙突から
たなびいた。
続いて、ローマと世界に
白煙による朗報を心待ち
向けて、新しく教皇に選ば
にしていたバチカン広場の
れた枢機卿の名前と、その
信者たちから歓声と拍手が
教皇名が告げられた。
わき上がった。
新教皇に選出されたの
は、ロバート・フランシス・
新教皇の登場を待つ人び
プレヴォスト枢機卿、教皇
との期待が高まる中、バチ
名はレオ十四世。この告知
カンの大聖堂の中央バルコ
と共に、広場を揺るがす歓
ニーにプロトディアコノ、
声がとどろいた。
ドミニク・マンベルティ枢



Leo P.P. XIV
@VATICAN MEDIA

新教皇レオ十四世の最初の祝福

あなたがたに平和があるように

愛する兄弟姉妹の皆さん。これが、神の民のためにいのちを与えた、よき牧者である、復活したキリストの最初の挨拶です。わたしもこう望みます。この平和の挨拶が皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように。

これが復活したキリストの平和です。謙遜で、忍耐強い、武器のない平和、武器を取り除く平和です。この平和は神から来るものです。神はわたしたち皆を無条件で愛してください。教皇フランシスコがローマを祝福された、弱々しいけれども常に勇気に満ちた声が、今もわたしたちの耳に残っています。

ローマを祝福された教皇は、復活祭の朝、世界に、全世界に祝福を与えました。同じ祝福を繰り返すことをわたしに許してください。神はわたしたちを愛してください。悪が打ち勝つことはもはやありません。わたしたちは皆、神のみ手のうちにあります。それゆえ、恐れることなく、神と、また互いに手と手をつないで、前に進んでいきましょう。わたしたちはキリストの弟子です。キリストはわたしたちに先立って歩んでくださいます。世界はこの方の方の光を必要としています。人類は、神とその愛に達するための橋として、この方を必要としています。皆さんもわたしたちを助けてください。対話と出会いによって互いに橋をかけるために。わたしたちが皆、一つに結ばれて、常に平和のうちにある唯一の民となることができるために。教皇フランシスコよ、ありがとうございます。

兄弟である枢機卿の皆さまにも感謝申し上げたいと思います。皆さまがわたしをペトロの後継者に選んでくださったのは、わたしが皆さまとともに歩むためです。一致した教会として、常に平和と正義を求め、イエス・キリストに忠実に従う者として、恐れることなく、福音を告げ知らせ、宣教者となろうと労苦するためです。

わたしは聖アウグスティヌスの子です。アウグスチノ修道会士です。アウグスティヌスはこういいました。「わたしはあなたがたとともにキリスト者であり、あなたが

たのために司教です」(アウグスティヌス『説教』[Augustinus, Sermo 340, 1: PL 38, 1483] 参照)。この意味で、わたしたちは皆、神がわたしたちに用意してくださった祖国に向けて、ともに歩むことができるのです。

ローマ教会に特別にご挨拶申し上げます。わたしたちは、どうすれば宣教的な教会になることができるかを探求しなければなりません。教会は、橋をかけ、対話しなければなりません。腕を広げたこの広場のように、人びとを受け入れるために常に開かれていなければなりません。(以上、イタリア語。以下、スペイン語)

すべての皆さま、とくに愛するペルーのチクラヨ教区の皆さまに一言、ご挨拶させてください。そこでは忠実な民が司教に同伴し、信仰を分かち合い、イエス・キリストに忠実な教会であり続けるために、本当に多くのものをささげました。(以下、再びイタリア語)

ローマ、イタリア、全世界の兄弟姉妹の皆さん。わたしたちはシノドス的な教会になることを望みます。それは、道を歩む教会、常に平和を求め、常に愛の業を求め、とくに苦しむ人に常に寄り添うことを求める教会です。

今日はポンペイの聖母への祈願日です。聖母マリアは常にわたしたちとともに歩み、わたしたちに寄り添い、その執り成しと愛をもってわたしたちを助けようと望まれます。

それでは、皆さんとともに祈りたいと思います。この新しい使命のため、全教会のため、世界の平和のために祈りましょう。そして、特別な恵みを聖母マリアに願い求めましょう。

アヴェ・マリア……

※カトリック中央協議会公式サイトより

新教皇略歴

- 1955年9月14日 シカゴ(アメリカ合衆国イリノイ州)生まれ(69歳)。
- 1977年 聖アウグスチノ修道会、善き勤めの聖母管区の修練院に入る。
- 1981年8月29日 終生誓願を宣立。
- 1982年 教皇庁立聖トマス・アクィナス大学(アンジェリクム)で教会法を学ぶ。
- 1982年6月19日 司祭叙階。
- 2001年 修道会通常総会で総長に選出(2007年通常総会で再任)。
- 2008年11月24日 ペトロ岐部と187殉教者の列福式(長崎)に参列。
- 2013年 シカゴ管区に戻り、誓願宣立者の教師および管区代理を務める。
- 2014年11月3日 教皇フランシスコによりチクラヨ(ペルー)教区使徒座管理者に任命され、司教に上げられ、スファル教区名義司教となる。同年12月12日 司教叙階。
- 2015年9月26日 チクラヨ司教となる。
- 2019年 教皇フランシスコにより教皇庁聖職者省委員に任命される。
- 2020年 司教省委員に任命。
- 2020年4月5日 教皇フランシスコによりカヤオ教区使徒座管理者に任命。
- 2023年1月30日 教皇庁司教省長官、ラテン・アメリカ委員会委員長。
- 2023年9月30日 枢機卿会議でサンタ・モニカ助祭枢機卿として叙任。
- 2025年2月6日 教皇フランシスコにより司教職階に上げられ、アルバノ首都近郊管区教会名義を与えられる。
- 2025年5月8日 教皇に選出され、レオ十四世と名乗る。



十字架とイコンを囲み、テゼの祈りをささげた

ワールドユースデー（以降WYD）の十字架と聖母子イコンが福岡教区から届き、5月3日と4日に青年のイベントが開催された。

ワールドユースデー（以降WYD）の十字架と聖母子イコンが福岡教区から届き、5月3日と4日に青年のイベントが開催された。



十字架と聖母子イコンの巡回

ワールドユースデー

の首都リスボンでWYDが開催され、世界中から約150万人の若者たちが集まった。

2025年は、WYDではなく通常聖年のプログラムの中で、青年の祝祭が7月28日から8月3日までローマで開催される。

次回のWYDは2027年に韓国・ソウルで開催される。アジアでの開催は1995年のマニラ以来であり、アジアの若者たちにとって大きな励ましとなる。

教皇フランシスコはアジアの若者たちに対してしばしば希望と役割を語っていた。この大会もまた、信仰と文化の出会いの場として、世界中の青年たちを新たな使命へと招くことが期待される。

WYDは、ただの一次的なイベントではなく、若者たちが「今」という時代の中で、信仰に根ざした生き方を深め、教会と社会における使命を再確認する貴重な旅路となる。

この旅路の旗印となるのが、聖ヨハネ・パウロ二世に祝福された全長4mになる十字架と、聖母子のイコンである。この歴史ある十字架とイコンが長崎教会管区、大阪高松教会管区、東京教会管区を回ることが決まり、大阪高松教区では担当司祭と日本・フィリピン・ベトナムの青年スタッフを中心に企画を考えた。

5月3日、十字架を囲んでテゼの祈りの時間を過ごし、多国籍の青年たち60人がひとつになり、心静かに祈りをささげた。

翌4日は主日ミサの中で十字架とイコンを青年たちが掲げて行列を行い、大聖堂へ入堂した。

ミサは前田万葉枢機卿がコンクラーベのためローマへ行かれたことから、大塚喜直司教（京都教区）が司式でささげられ、青年たちがひとつになる機会となった。

ミサ後は「十字架の道行き」を行い、代表の青年たちがキリストと出会った時の気持ちや経験を分かち合い、最後に食事を囲みながら交流した。これからの教区を盛りあげてくれる大きな力が生まれそうなひと時となった。

そして、十字架とイコンは名古屋教区の青年たちへとバトンをつないでいった。

名古屋教区の青年たち



大塚喜直司教司式によるミサ



名古屋教区の青年たち

* 堺教会 *

「カリタスのとサポートセンター」ボランティア報告会

3月9日、堺教会の社会活動委員会の呼びかけで、昨年11月にボランティアに参加した田中てるみさんに被災地の様子を報告いただいた。



30分ほどの時間でしたが、参加してくださった皆さんは現地の状況、支援の様子など熱心に耳を傾けて話を聞いてくださり、最後はともに被災者の方がたへ思いを馳せて祈りました。

ボランティアで出会った方がたからは「教会の皆様からの募金が役立っている」と喜んでくださいました。

1日目は、孤立集落へ支援物資を届け、輪島市の重蔵神社での物資配布に關わりました。雨の中でも傘をさして、手押し車や杖をついて、300〜400人ほどの人が並んでいました。

復興が進まず、今までの日常とは程遠い毎日なのに現地の人たちは、気持ちもからだも自分にできる限りの力を出して今を受け入れ、前を向こうとされていきました。

2日目は民間ボランティアが開設した「おらっちゃん七尾」の依頼で、被災者宅の荷物の運び出し、ゴミの仕分けをしました。そして七尾教会に隣接している聖母幼稚園前で開催している「じんの



上：カリタスのとサポートセンターの活動拠点
左：重蔵神社で物資を配給
神社の鳥居は破壊された



重蔵神社

びカフェ」に参加。ブラジル人信徒が焼いてきてくださったケーキを、七尾の皆さん、「シスターズリレー」で長崎の五島やベトナムからこられたシスターの方、岐阜や東京、大阪から集まったボランティアメンバーと美味しくいただきました。ここはさまざまな立場の人が集い、心地よくホッとする、地域の人にとっての大切な居場所になっています。

カリタスはこのような人びとの、お一人お一人に丁寧な寄り添い、「だれも取り残さない」という姿勢で活動しています。皆様の祈りや想いが現地に届き、しっかりとつながっていると感じ、帰ってきました。

また、カリタスではZoomで報告会を行い、その時点での状況、進捗、問題点など、参加者と共有する時間もつくっています。災害関連死が増えていること、七尾市は公費解体は少しずつ進んではいませんが、すべての公営住宅が完成するまでに6年かかる見通し。しかし、70代ではローンも組めず、高齢者が生きていくには大変な状況が続いているとの報告がありました。

聖年メッセージにもあるように「希望をもってともに歩む」を大切に、祈り考え行動していきたいです。カリタスのとサポートセンター長である片岡義博神父が動画にされた、センターのミッションステートメントを観て、被災者のための祈りをもってこの報告会を終わりました。

（文 堺教会 田中てるみ）

Facebook
「カリタスのとサポートセンター」活動の様子がわかります。



節目を迎えたアントニオ・フラデラ・オディン神父、前田万葉大司教、ラファエル・サンズ神父、梅崎隆一神父（左から）

聖香油ミサ 主の奉仕者として新たに

4月16日、大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂で聖香油ミサがささげられた。



教区内から集った103人の司祭と約300人の修道者と信徒が、前田万葉大司教とともに祈りを捧げ、司祭職の約束の更新、聖香油の祝別が行われた。説教で酒井俊弘補佐司教は、聖香油ミサが「司教と司祭の深い結びつきを示す機会」であり、「受洗者や病者に用いる油が祝福される重要なミサ」であると語った。

また、帰天した司祭への祈りや、長年奉仕してきた司祭への祝福も行われた。最後には、叙階の節目を迎えた8人の司教・司祭の名が読み上げられ、聖堂には温かな拍手が響いた。司祭たちはイエスとともに歩む決意を新たにしました。





Miserando atque eligendo

いつくしみをもって選ばれた

本名：ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ
(Jorge Mario Bergoglio)

生年月日：1936年12月17日

出身地：アルゼンチン・ブエノスアイレス

国籍：アルゼンチン

1969年12月13日：司祭叙階

1992年5月20日：教皇ヨハネ・パウロ二世から
ブエノスアイレス補佐司教 任命

1992年6月27日：司教叙階

1997年6月3日：ブエノスアイレス協働大司教

1998年2月28日：同教区大司教

2001年2月21日：教皇ヨハネ・パウロ二世から
枢機卿に叙任

2013年3月13日：第266代教皇に選出

2025年4月21日：帰天(88歳)



教皇フランシスコ帰天

私たちの善き牧者であった教皇フランシスコは、現地時間4月21日午前7時35分(日本時間同日14時35分)、御父のもとへ旅立たれた。初めての南米出身の教皇として、2013年から十年以上にわたり、これまで手をつけられることのなかったバチカンの機構改革や、第二バチカン公会議の成果を踏まえた教会のシノドス性の推進など、力強く教会を導かれた教皇フランシスコの逝去に際して、深い悲しみのうちに、わたしたちの希望の源である御父のもとでの永遠の安息を心よりお祈りいたします。

*本紙3・4面は4月29日、教皇フランシスコ追悼ミサで特別号として配布。

パパ様の 帰天寂しや 復活祭

大司教 前田万葉

パパ様のご逝去の報に接し、ご復活祭というのに、悲しく寂しさを感じました。「パパ様の帰天寂しや復活祭」の献句そのものでした。私は、教皇フランシスコに2014年に大阪大司教に任命され、2018年に枢機卿に親任されました。お会いするたびに、温かく迎え、励ましていただき、まさに霊父・教父といえる存在でした。

私がまだ、広島司教だった時、2014年に韓国で行われたアジア・ユース・デーの際にお会いした時に「To Osaka, Takayama Ukon」と話かけられ、私は何のことかわからないうちに、後日、大阪大司教任命が発表されました。多くの人に挨拶をされる機会が多い中で、一人ひとりのことを気にかけて話しかけられる姿に、優しさや誠実さを感じました。預かった一人の青年の手紙を受け取ってください、ちゃんと返事もいただきましたし、また、ある市議員に預けられたお米を差し出すと「オオ、ジャパニーズ・ライス!」と、喜んで受け取ってくださいました。

また、教皇は戦争や貧しい人への思いが強かったことから、核兵器の廃絶を求める私や日本カトリック司教団の思いを受け止めてくださり、2019年来日されたときには核兵器廃絶による平和の確立とすべてのいのちを守ることの重要性を力強く発信してくださいました。

バチカンが教皇来日を発表する前に、枢機卿親任の返礼巡礼で訪れたのが、教皇の82歳の誕生日でした。この日に巡礼団でバースデーケーキをもってお会いする機会がありました。とても喜んでくださり、私たちからの「Please Come to Japan」の呼びかけに、このことは「訪日の食前酒(アペリティーヴォ)ですね」とおっしゃってくださいました。みんなで教皇来日を確信し、大喜びしたものです。

教皇フランシスコによる第十六回世界代表者司教会議(シノドス)は、司教だけでなく老若男女問わずが集うものでした。これからの教会が、ともに歩む教会=シノドス的「希望の巡礼者」となる糧となりますように祈ります。

そして、これまでの一つひとつの発言を思い出しながら教皇フランシスコの永遠の安息を祈ってまいりましょう。



ぶれない優先順位

補佐司教 酒井俊弘

教皇フランシスコはぶれない優先順位を持つ方でした。就任当初から、教皇宮殿に住まない、赤い靴をはかない、胸の十字架は司教時代のまま：など自分の考えをゆずらない姿に、明確な優先順位があるのだと感じました。

その教皇様が最優先にされたのは「いづくしみ」でした。ご自分の紋章に刻まれたモットー「Misericordiae diligendo in iucundum」の通り、神のいつくしみを訴え、実践し続けられました。教皇就任最初の旅行は、アフリカからの難民が押し寄せたイタリヤ南部のランペドゥーザ島で、「出向いていく」という優先順位の実践でした。2015～16年に「いづくしみの特別聖年」を設け、神のいつくしみについて語り、聖年中は毎月ご自身でも刑務所や病院などに向かれました。

個人的な思い出としては、2018年司教に選ばれてすぐに前田大司教とアベイヤ司教とともにパチカンを訪問した際、サンタマルタ館の前でばったり出合い、気さくに声をかけていただいた時の笑顔が忘れられません。その後、2019年の訪日では、広報関係者たちの集合写真にサインと言葉をお願いしたら、超過密スケジュールの中、すぐに応えてくださいました。最後にお会いできたのは今年の1月で、日本から来たと言つわると、目を輝かせて日本にまつわる思い出を話してください、日の丸の入った巡礼スカーフを祝福してくださいました。誰であつても、目の前にいる人に全力で関わることです。



教皇フランシスコと前田大司教との写真撮影時、教皇がサインを求められた。司教は「いづくしみ」の特別聖年を設け、神のいつくしみについて語り、聖年中は毎月ご自身でも刑務所や病院などに向かれました。

「出向いていく」という優先順位の実践でした。2015～16年に「いづくしみの特別聖年」を設け、神のいつくしみについて語り、聖年中は毎月ご自身でも刑務所や病院などに向かれました。

個人的な思い出としては、2018年司教に選ばれてすぐに前田大司教とアベイヤ司教とともにパチカンを訪問した際、サンタマルタ館の前でばったり出合い、気さくに声をかけていただいた時の笑顔が忘れられません。その後、2019年の訪日では、広報関係者たちの集合写真にサインと言葉をお願いしたら、超過密スケジュールの中、すぐに応えてくださいました。最後にお会いできたのは今年の1月で、日本から来たと言つわると、目を輝かせて日本にまつわる思い出を話してください、日の丸の入った巡礼スカーフを祝福してくださいました。誰であつても、目の前にいる人に全力で関わることです。

その知らせは突然やってきました。考えて見れば、死はいつも突然やってくる。実は私たちがそれを予期していないのだ。しかし、死は訪れるものであり、たとえ私たちがそれを望んでいなくとも、死は人びとを連れ去る。たとえそれがローマ教皇であつても。

フランシスコ教皇は、最後の仕事を終え、天の門を開いて、向こう側に渡りました。向こうではどうなっているかわかりませんが、聖年の復活の祝日は旅立つに最高の日だったでしょう。

今感じていることを表現し難い。しかし、悲しみよりも、彼がこの世での時間を全う

し、彼の使命は終わったという確信をもっています。きつと主は「もう十分だ」と言われたに違いありません。

どちらかといえば、彼がこの世を去る前に、この世界にもう少し平和が訪れることを望んでいたでしょう。残念ながらそれは実現しませんでした。しかし、人と接することに慣れていた彼には、人間の力に及ばない領域がある現実を受け入れたでしょう。そして彼は今、間違いなく、この世では得られない視点から、別の目でこの世界を見ていることでしょう。

もうひとつ感じることは、感謝の気持ちです。結局のと

ころ、私たちは皆巡礼者であり、その歩みに導いてくれたフランシスコ教皇への感謝で一杯です。

若いときから彼は人間の暴力にさらされて平和がどれほど大切かよく分かっていました。その姿勢が変わりませんでした。教皇フランシスコは、平和を求めることが人間に欠かれないものであり、いくら正当化しても戦争は問題解決にならない現実を伝える使命を受けていたように思います。彼は聖座の中に世界平和が深まることなく、対立が続けることを最後まで残念に思っていました。教皇フランシスコの教えを継ごうとするならば先ず世界平和を訴えるべきでしょう。それは宗教、国籍を超える人間に欠かせないものであることを意識

しなければなりません。さまざまな分野で貢献した彼ですが、平和への思いが一番のメッセージだったように思います。

よく考えれば、フランシスコ教皇が去ったというより、帰ったのです。フランシスコは御父の家に帰られたのです。私のように、数年間共に歩む機会に恵まれた者にとつても、それはいつも少なく感じます。もつと分かち合いたかった、もつと質問したかった、もつと感謝したかったと残念がります。それはもう叶いません。しかし、私たちの信仰が教えていますように、嫌いや忙しきから解放され、時間が問題にならなくなりま

す。その変わり、感謝、問いかけ、分かち合う時間が与えられる世界があります。まだ気づかないのは残念ですが

……結局のところ、私たちは皆、神の愛と救済を必要としている、限りある弱い存在なのです。ありがとうございます、フランシスコ。安らかに眠ってください。あなたはそれに相応しい人です。福音書にあるように、主はきつと両手を広げてあなたを迎えてくださるでしょう。そこから、私

たちを導き続けてください。私たちはまだ学ぶべきことがたくさんあり、間違いなく、あなたが私たちに残してくれたものは良い材料です。この巡礼の旅の一部をあなたとともに歩むことができたこと、そしてその日が来れば、あなたにお会いし、今はできないことを直接お礼を申し上げることができるとを知っています。

共に歩んだという確信

フランシスコ教皇に別れを告げる
イエズス会司祭 デルカ・レンゾ

「Todos, todos, todos! みんな、みんな、みんな!」と「Vayamos adelante, sin miedo(共に前に進みましょう、恐れずに)」。誰をも排除しないいつくしみの心と、希望をもつても前に進むという熱意のこもった言葉です。教皇のこの遺志を皆で継いでいきましょう。教皇様、これからも私たちがみんなともに歩んでください。

教皇フランシスコ帰天に寄せて イエズス会司祭 山内保憲(大阪高松教区出身)

これは、私の告白である。私は教皇フランシスコに怒られた経験がある。

2019年教皇来日に先立って、教皇から修道会を通してリクエストが届いた。当時、私は高齢になったイエズス会会員の介護を担当していた。教皇は滞在中に、私が介護を担当していたアドルフ・ニコラス神父と会うことを希望された。

ニコラス神父は、イエズス会のトップである総長を勤めた人物であった。彼は、イエズス会会員である教皇フラン

シスコに教皇就任の許可を与えた総長であった。残念なことには、そのニコラス神父は神経の病をおっており、その時には自ら話すことも食事をすることもできない状態であった。特別なケアが必要であったため、病院で治療を受けていた。彼を教皇の滞在先まで移動させることは困難だと伝えた。すると、教皇は教皇自身がニコラス神父のいる病院まで訪問できるように手配せよと指示してきた。しかし、警備や過密なスケジュールの関係で教皇の病院訪問は不可能だと返答した。三度目

に教皇はメールを私の長上である管区長に送られた。管区長は私を呼び出し、「山内神父、教皇は怒っています。あなたが世話している会員を全員、教皇が訪問する上智大学まで連れて来なさい」と書いていた。これは命令です」と伝えられた。

教皇に命令されてしまえば仕方がない。私は、ニコラス神父が入院していた病院の医師たちをはじめ、知り合いの医師や看護師に頭を下げてもらった。結果として、3台の介護車や民間救急車、5人の医師に3人の看護師、そのほか多くの人の助けによって上智大学まで、14人の司祭・ブラザーを無事にお連れすることができたのである。教皇に謁見した司祭・ブラザーの表情が忘れられない。

私はこの体験を、教皇フランシスコからの教えとして受け止めている。私たちは、合理性やさまざまな理由をつけて弱くされている人びと、周縁に追いやりられている人びとを見捨て、切り捨ててしまおう。過密なスケジュールの中でも病人たちに会うことのために時間を割かれた教皇フランシスコは、私に「どんな小さくされている人も一人も見捨てな」と厳しく注意されているのであると思う。教皇フランシスコの教えを忘れずに、これからの人生を歩んでいきたいと思う。

朝禱会へのお誘い

カトリック教会・日本聖公会・プロテスタントによる教会一致（エキュメニカル）の運動が、「朝禱会」として、全国的に組織されています。創設は、1957年1月14日、現在126カ所で開設されています。（週1回開催26カ所、その他はおおむね月1回開催）（大阪高松教区の範囲では、35カ所）参加者は、会員登録制とはらず、「イエスをキリストと信じる」信仰宣言によって結ばれた祈りの集いです。カトリック教会は、1964年の第2バチカン公会議の「エキュメニズムに関する教令」に基づいて参加しています。

集会は、「信仰の証し」と「祈り」（教会の一致・正義と平和・若者の救い）が中心です。祈りの後、*愛餐会を催し、それぞれの信仰を語り合っています。会費としての徴収はなく、集会の際、食事費用と、「朝禱誌」（広報誌）の負担をお願いしています。

皆さま、ぜひ朝禱会にご参加ください。

お近くの朝禱会をご案内いたしますので、下記までご連絡ください。

* 愛餐会はキリスト教教会でひらかれる食事をいう。

事務局：大阪クリスチャンセンター
問合せ先 06-6762-7701
資料提供：カトリック今市教会 三島克己



プロの弁士と楽師を交えての実演は、史実としての場面に生の感動を与えます。一人の弁士が、十人十色の声音を使い分け、豊臣秀吉、僧侶、神父、盗賊、少年、幼気な子どもたちまで、そこに実在しているのかと、思わず弁士のまわりを見渡しました。そして殉教者、婦人など全ての人物を演出しました。

教会に参加を呼びかけました。参加費無料と振替休日がある80人近い牧師と信者さんたちの来訪を得ました。その背景には、戦争や災害が身に迫っているという私たちの危機意識だけではなく、神様からの絶えざる呼びかけを感じないではいられません。

高松市内だけではなく、周辺の坂出、普通寺、遠くは池田町（徳島）や岡山からも来訪者がありました。（文 桜町教会 佐藤悦朗）

朝禱会

日本26聖人殉教の無声映画の上映会を終えて



2月24日、桜町教会大聖堂で26聖人無声映画の上映会が開催された。

大阪高松教区 平和月間について

絶望の世界を旅しながら 希望を見出していこう



「多くの人の命がどんどん奪われていくなかで、人びとは茫然と何もしないのではなく背を向けている」

生前のフランシスコ教皇の言葉です。この言葉は、世界じゅうの苦難の叫び声に背を向ける私自身に厳しく問われたように深く響きました。

平和月間は、社会の現実から正面から向き合い、どうしたら平和をつくれるのかを問い、祈る特別な10日間です。

私は、どこで誰とともに、どのように「絶望の淵を歩む人」に向き合うかを考え、まず外の若者たちに会って問いかけるところから始めることにしました。

以下は20代から40代の声を集めたものです。「平和や戦争って、意識のどこかにはあるけど『失われた世代』の私たちは生活に余裕がなく、そこまで関心が持てない」「誰でも戦争には反対なんだから、ただ戦争はダメって言っ

ても響かない。でもこのまま何もしないのはいかんと気づいている人はいる。とは言え、行動するにはどうしても歴史や地政学など頭を使って考えないといけない。」「高速化した過激な言葉はドーパミンを刺激して依存性を生む。もっと過激なものを目指して加速する一方だから、地味な講演とか教会とか、無理」。

これが若者の率直な反応ですが、どの人も話の最後に「教会には行かないけど私

に声をかけてくれて嬉しい」「またお願いします」と言うのが心に残りました。自分を覚えてくれる大人がいるのを若者が喜んでくれたのを知り、私は焦らず一人ひとりに時間をかけて向き合う関係を大事にしようと思えました。

フランシスコ前教皇は、聖年のテーマを「希望の巡礼者」としました。平和から真逆の方向に世界が流れている今このときに、パパ様はあえて「絶望の世界を旅しながら希望を見出していこう」と呼びかけたのでした。何と強いメッセージでしょうか。

大阪高松教区は、平和月間を更に拡大して7月8月を平和月間と決めました。この2カ月間、絶望の世界を旅しながら希望を見出していきたいと思えます。

（文 シナピス事務局 ビスカルド篤子）



目立たない仕事も忠実に果たした。教会では信徒の方たちとの交わりを大事にし、洗礼の準備や高齢者の集いにも参加し福音宣教を行っていた。単純で裏表のない明るい性格で、修道会の姉妹たちだけでなく、多くの人びとに慕われていた。

◆ 春名昌哉神父（教区）の父、アロイジオ春名正志さんは4月28日、帰天。92歳。

訃報



Sr.ベルナデッタ 関恵美子（愛徳カルメル修道女会）は、4月25日、老衰のため帰天。95歳。東京都出身。奉獻生活70年。

◆ 春名昌哉神父（教区）の父、アロイジオ春名正志さんは4月28日、帰天。92歳。

1963年8月28日に初誓願後、幼稚園や保育園で幼児教育に携わった。その後、幼稚園の会計や、院内での

◆ 春名昌哉神父（教区）の父、アロイジオ春名正志さんは4月28日、帰天。92歳。

大阪のカトリック病院
ガラシア病院

特徴的な医療
ホスピス・糖尿病内科
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父

看護師 募集中

〒562-8567 箕面市栗生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345

医療法人ガラシア会

ひとりで悩まないで
～私たちに聴かせてください～

カトリック大阪高松大司教区
ハラメント相談窓口

※委員会はハラメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間
月・火・金曜日（祝日を除く）
午前10時～午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。

カトリック墓地
納骨堂・納骨所
使用者募集

大阪高松教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただきます。ほか、インターネットでもご覧いただけます。教区ホームページ右上のこのパナーをクリック

カトリック墓地
納骨堂・納骨所

資料請求やお問い合わせは
教区本部事務局 総務課管理部門 竹中まで
☎ 06-6941-9705

わたしは復活であり、命である。
ヨハネ11:25

来目



ヨハネ1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

当面休止

主催 使徒職養成委員会

問 ☎06-6941-9700

サクラファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと～エマオへの道で～◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 6/20(金)18:00～19:30 (夜の部のみ)

お話 神田 裕神父(三田教会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「イエスのたとえ話・もう一度・抜粋」

日時 6/23・7/14(月) 13:30～15:00

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』

日時 6/25(水)10:30～12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 6/23(月)17:00～18:30 (6月は1回のみ)

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00～19:30

問 サクラファミリア

☎06-6225-8871

✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 6/7(土)～6/28(土) 16:00～17:30(4回)

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 9/7(日)～9/28(日) 14:00～16:00(4回)

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎078-851-2846

✉renraku@rokko-catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 6/26(木)・6/27(金) 10:00～15:30

指導 染野治雄神父(6/26) 山内十束神父(6/27)

参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 6/20(金)17:00～6/21(土)15:30

指導 染野治雄神父

参加費 ¥9,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水) 10:00～12:00

指導 染野治雄神父

参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水) 10:00～12:00

指導 山内十束神父

参加費 ¥1,000

◆新約聖書の世界への旅

日時 第1(月)19:00～

指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家

☎0797-84-3111

講座・研修会

大阪北地区 春の養成コース◆シノドス～日常の中で信仰を生きるヒント～

講師 ヌノ・リマ神父

日時 6/14(土)

10:00～13:00

場所 今市教会

主催 大阪北地区宣教評議会 養成チーム

問・申込 大阪北地区小教区

▶各所属教会養成チーム担当者まで。他地区の方▶養成チーム担当 梅崎隆一神父まで(☎072-840-2938 クラレチアンレジデンス) 申込締め切り 6/8(日)

酒井俊弘補佐司教 講演会 ◆けっきょくシノドスって何?～シノダリティを生きる教会となるために～

日時 6/15(日)

14:00～15:30

場所 夙川教会 プスケホール

主催 阪神地区宣教評議会 養成チーム

申込 不要

問 夙川教会

☎0798-22-1649

管区部落差別人権活動センター 学習会◆今日の部落差別の有り様と社会

講師 黒川 みどりさん

日時 7/21(月・祝)

場所 サクラファミリア

問・申込 管区部落差別人権活動センター

☎075-223-3340

✉bukatu@kyoto.catholic.jp

講座◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00

場所 神戸学生青年センター

参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支縁機構

問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15～35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00～16:00

場所 大阪YCWセンター (またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com

HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エフファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

日時 第2(水)

10:00～12:00

場所 教区本部事務局 1階会議室

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助

グループ◆オリーブの集い 守秘義務と分かち合い

いつ来てもウェルカム

当日キャンセルOK

日時 第3(日)14:00～16:00

場所 姫里集会所

参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで

問 ☎078-583-2525

✉yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー

◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時・場所

奇数月 第2(火)13:30～

15:00 姫里集会所

偶数月 第2(水)13:30～

15:30 北須磨教会

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324

☎072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan

@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会

◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣

対象 手話に興味をお持ちの方

※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)

10:00～14:00

場所 姫里集会所

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い

◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚

☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火)13:30～15:00

問 森田

☎079-426-5704

情報の掲載には申し込みが必要です

- 掲載無料
- 申し込みは、掲載希望月2カ月前の末日まで(厳守)
- 下記連絡先までご連絡ください。記入用紙をお送りします
- 掲載の継続をご希望の場合はお知らせください
- 締切日を過ぎての申し込みや教区報にふさわしくないと思われるものは掲載できません
- スペースの関係上、掲載できない場合はご連絡します
- 編集(加筆・修正)させていただくこともございます

【連絡先】〒540-0004 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪高松大司教区広報委員会 ☎06-6946-3223(直) ☎06-6946-3224(直) ✉kyokuho@ostk.catholic.jp

行事等日程

6月		7月	
1日	主の昇天	24日	火 洗礼者聖ヨハネの誕生
5日	木 [常任司教委員会]	27日	金 イエスのみ心
8日	日 聖霊降臨の主日 教会の母聖マリア	28日	土 11時 教区宣教司牧評議会
9日	月 管区司牧者研修会 (~11日迄)	29日	日 パウロ酒井俊弘補佐司教霊名 聖ペトロ使徒座への献金
15日	日 三位一体の主日	1日	火 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
16日	月 [定例司教総会] (~20日迄)	3日	木 [常任司教委員会]
22日	日 キリストの聖体	9日	水 10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会

6月司教予定

「行事等日程」以外

- ・6/1 神戸中央教会堅信式(†S)
- ・6/2～6 沖繩・鹿児島・大分 合同黙想会(指導)(†M)
- ・6/8 神戸中ブロック 合同堅信式(†S)
- ・6/9～11 管区司牧者研修会(†M)(†S)
- ・6/15 六甲教会 堅信式(†S)
- ・6/22～24 沖繩慰霊の日平和祈念(†M)(†S)
- ・6/26～27 全国カトリック学校校長教頭合同研修会(†S)
- ・6/28 教区宣教司牧評議会(†M)(†S)
- ・6/29 万博 パチカンデー(†M)(†S)

†M=前田万葉大司教 †S=酒井俊弘補佐司教

第42回 日本カトリック正義と平和全国大会 2025 仙台大会◆「希望は欺かない～大震災から14年 つなぐ思い 国籍を超えて歩む平和への道～」

・10/11(土)フィールドワーク・10/12(日)基調講演・シンポジウム・10/13(月・祝)分科会・派遣ミサ

会場 仙台カテドラル カトリック元寺小路教会他

主催 カトリック仙台司教区

共催 日本カトリック正義と平和協議会

協力 日本カトリック正義と平和仙台協議会

問合せ 大会実行委員会事務局

☎022-222-5535 ✉sendai.seihei2025@gmail.com

「忘れないうで」の歌には高校生の時に出会いました。この歌に、幾度も励まされ支えられてきました。「忘れないで、悲しみの夜は、希望の明日に変わることを、だからすぐに離さないで、胸の中のみことばを」

日々追われ、祈ることから遠ざかってしまう私に、主はいつも変わらぬ愛で、寄り添ってくださいます。見失いそうになる時こそ、みことばを心に留めたい。聖心の月、もう一度心を静めて、そのまなざしに気づくことができそうですように。

(大阪北地区 杉谷万里子)

ほばたき